

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	(株)たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 7月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・のんびりと過している。・しっかり食べ、しっかり出し、よく眠る。・一日一回は大声で笑う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「本人の立場に立って考える」という姿勢を大切にしており、それが利用者の穏やかな表情に繋がっている。職員が介護業務で喜びを感じることに、話し合った際出された意見として、ホームが大好きな利用者から「今晚泊めてもらって良いですか?」と言われた時、利用者が判断、結論を出さなければならない時、職員に対して家族に求めるような眼差し、態度で同意を求めてきた時であった。地域の各種イベントは、高台にあるホームの眼下で開催され、広い窓からは、海や砂浜の海水浴場など飽くことなく眺めることができる。職員は、利用者、家族、地域、行政との関係を大切に、介護業務のなかに幸せを感じており、今後も一層努力されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 北 ウィング

記入者(管理者)

氏名 土居京子

評価完了日 21 年 6 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 代表者が考えられた理念に共感し、日々の暮らしやケアプランも理念に基づいて支援している。 (外部評価) 「人生の最終ステージを尊厳あるものとするためにその人らしく生き生きと暮らしていただく」という理念のもと「言葉で表現できない人の気持ちを察する必要性」「職員の気配りの大切さ」など、職員は常に「その人の立場に立って」考えることをモットーにしている。理念に沿った個人目標も立て、毎月の職員会で報告するシステムもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 医療、美容、買い物は地元の店を利用している。地区の行事には、出来る限り参加し、地域の方々も少しずつサポートしてもらえるようになった。 (外部評価) 利用者の半数は地元出身者であったので、職員の雇用についても意識的に地元出身者を採用した。開設当初からグループホームが地域に受け入れられるよう努力を重ねた結果、保育園や小・中学校生の訪問もあり、地域の行事にも好意的に迎え入れてもらえるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 貢献になっているとは言えない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の開催、会議形式より井戸端会議の様な感じでやっているが、何でも話し合え、相談にも応じてもらっている。	
			(外部評価) 多彩な構成員で2ヶ月に1回開催している。会議で得たものは多いが、特に①地域と繋がりが出来たこと、②地域住民が温かく見守ってくれるようになったこと、③委員の橋渡しで利用者の昔の友達がホームを訪ねてくれるようになったこと、などがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議には必ず市役所の担当者の出席があり実情を伝えている。又市町村が開催される説明会や研修会にも出席し、意見を交換している。	
			(外部評価) 市主催の説明会や研修会には必ず出席している。運営推進会議では市担当職員に出席いただき、災害対策として消火栓の位置が不明な所を調査・報告してもらうなど積極的な連携を得ている。事故発生報告および改善策等の文書連絡も密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間、早朝以外は施錠をしていない。 身体拘束もしていない。	
			(外部評価) 夜間・早朝のみ安全上の配慮から施錠している。鍵をかけない暮らしの大切さを理解し、また利用者の立場に立って「動きたい時に動けない辛さ」を認識し、身体拘束をなくしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者さんとの関係が密になると、言葉が乱暴になっているときがあると、反省の意見が出た。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用を必要とされていた入居者さんがあり、少しずつ勉強させて頂いていたが、退居されて途中になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 図っている。改定内容がある時は文書を送り同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方々とは話合う機会を多く持つようにつとめている。面会が多く取れない方へは手紙、電話にて連絡を取っている。	
			(外部評価) 日頃から、家族の声を聞く努力をしている。運営推進会議は特に有効であるが、出席いただく家族はまだ少ない。家族から出された普段聞けない色々な思いや意見、また課題等を職員間で共有し、改善に繋げるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議、今回の自己評価時に職員から出た意見を管理者から代表者に伝える。 (外部評価) 毎月、全職員参加の職員会を開催し、コミュニケーションの場としている。事業所の自己評価も最終的にはこの席で十分な意見交換のうえまとめている。この1年間でより広く深く勉強したいという理由で職員2名がやむを得ず退職したが、利用者へのダメージを最少にするよう配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者には出来る限り職員の話をきいてもらっている。やりがいがあるという言葉は出なかった。地域的に近くで働けるという条件が一番とのこと。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験年数に合わせてグループホーム協会の研修、県社協の研修に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会等のグループワークで他の施設との意見交換をする程度、ネットワークづくりまでは出来ていない。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居日のケアプランでは、本当に困っていること、したいことは取り上げにくい。一週間10日と時間をかけ適宜追加プランを加えたり、スタッフ間の申し送りノート等で連携を図っていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査時、入居日に時間を取り、家族の話を聞いている。落ち着かれるまではこまめに連絡を取り、安心してもらえるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人さんの希望が開始の段階で、できるとは言えないが、家族の「その時」まずの必要は理解したいと努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 努力をしているが、まだ一方的になることが少しあるとの意見あり。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時やケアプラン更新時、出来る限り話し合いの時間を取り、共に支え合う気持ちで関係を築く。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得ながら、努めているが全員出来ているとは言えない。 (外部評価) 利用者本人の生活習慣を尊重し、人間関係や地域社会との関係を継続できるよう努力している。地域の人達の協力により、利用者が知人や友人と再会し、関係性の継続につながった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々に合わせて対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 努力している。迷った時は本人の立場や理念に基づいて話し合う。	
			(外部評価) 職員は「普段の生活の中で、本人はどう思っているのか」という視点で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞きとろうと努力している。気づいたことは連絡ノートに記載し、全員で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族との会話や面接者の方々との会話又は利用者さんが語り出す過去の話からバックグラウンドを知る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしい暮らしを一番に考えている。 無理強いはいしない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 自己主張できる方からは意見を聞く。家族からも必ず意見、要望をうかがい、それを元にスタッフ全員が話し合い計画を立てる。 (外部評価) 介護計画は、必ず家族の思いや意向を確かめ、利用者が同席するケア会議で職員全員が意見交換して立案している。その人らしく暮らし続けることを大切にし、本人の希望の尊重をケアプラン作成の第一番目に取り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録と日誌で個人の生活記録を残している。申し送りノートに情報を書き込み全員がチェックするようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) まき込める事業所、学校、保育園、金融関係を利用してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医院の密接な関係、他科受診も含め家族と話し合 いながら支援している。	
			(外部評価) 本人、家族の希望によって主治医を決定している。遠 方への通院は家族同伴をお願いし、帰宅時には報告を 受けて情報共有している。地元の協力医院で受診する 場合は職員が介助し、その報告は緊急性がなければ毎 月の会計報告書に添付して情報のやり取りをしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 6月に入居された方がはじめて訪問看護を利用され た。いろいろ相談にのってもらった。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 面会を多くし担当のDr、Nsと連携を取っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態に変化があった場合、細かく報告し早い段階に次 のことをきくようにしている。家族の要望をしっかり と受止めていく。	
			(外部評価) 利用者の状態の変化に応じて、家族や医療機関と繰り 返し話し合い、連携を図っている。家族は、早い段階 では「ホームで終末期を迎えさせたい」と希望するが、 最終的には病院を選ぶことが多い。ホームは開設以来 2年で2人の看取りを経験し、納得した最期を迎えら れるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練を受けると初期手当てがいかされた。 新入社員も年内に受ける予定。 不安はいつもあるようだ。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との協力体制をお願いし、消化にあたる地元消防団の方々との説明、確認をもらった。 訓練はまだしていない。 (外部評価) 地元消防団に館内の避難経路、消火設備を確認してもらい、災害時の協力依頼をしているが、訓練はまだ実施していない。高波などの災害時には、高台に位置する当ホームを非難場所として提供することも地元伝えてる。	災害はいつ、どの時間帯に起こるか分からないので、多くの職員が夜間の1人勤務に不安をもっている。不安解消の一助として、様々な状況に応じた実践的な訓練が実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの尊重＝事故の危険性も高く、神経を使う。対応が難しくスタッフの連携が必要。 (外部評価) 「人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない」をモットーに日々介護に取り組んでいる。動作が不安定な利用者のトイレ内での転倒・骨折など「危険性」に対して、本人の希望と家族の心配が相反し、判断が難しい場合もあるが、安全に配慮しながらプライバシーを守るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り取り希望、要望、家族の協力も得て受止めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添っていると思うが入浴の順番は同じ人が一番になってもいけないのである程度決めさせてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の自由を尊重している。 受診時や外出時は適宜アドバイスもする。 本人の希望があれば美容院などにも行ってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立をホワイトボードに書く。 下ごしらえ、片付け等、個々に合わせてしているが、限られた人になっている。	
			(外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで、介助の必要な方への対応も優しさ溢れるものであった。食事に関する一連の作業で、準備の段階は知ることが出来なかったが、後片付けは自然の流れの中で共同して行われている様子を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水予防に注意している。 これからの季節は特に、水分補給に気をつける。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人に合わせて、口腔ケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 退院間もない方をのぞいて、トイレでの排泄を心がけている。	
			(外部評価) 日中は、全員トイレでの排泄を心がけ、夜間のみオムツを使用している。一人ひとりの羞恥心や不安に配慮しながら、食後の口腔ケア時に、利用者の耳元でさりげなく排泄の誘導をしたり自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘対策にも気をつけている。 体動を増やしたり、水分補給をこまめにする。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一番風呂を希望する方が多いので、曜日を決めて納得してもらっている。 毎日入りたい方は毎日入れられている。	
			(外部評価) 本人の意向にそって、希望者は毎日入浴している。一番風呂を希望する利用者が多く、その対応に悩んだ時期もあったが、家族の提案で入浴順番表を呈示することにより解決し、現在は入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) マイペースに過してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 協力医院のDr、Nsとも症状について話し合い、適宜支援してもらっている。 変化がある場合は連絡ノートに記入しすべての職員が把握できるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生き生きとしてもらえるよう日々努力している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て支援している。 地域の方々も協力してもらえるようになった。	
			(外部評価) 利用者の半数が地元出身者であるため、家族が「人に知られたくない」という理由で外出を拒む例もあるが、グループホームとしては家族の理解が得られるまで待って、希望にそった外出支援をしている。戸外の行事に参加する時は、家族や地域住民のサポートを得て外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 手元にあった方が安心される方は、所持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの季節の飾りやカレンダーなどで季節感を味わってもらっている。</p> <p>(外部評価) ホームは、木造で温かい雰囲気があり、天井の梁なども美しく、共用空間として居心地がよい。利用者の写真や訪問した子供達の様子が掲示板にすっきりとまとめられ、壁には余計な飾りがなく、利用者にとって安心で気持ちのよい環境となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 特に工夫もしていないが、気の合わない方があったら席替えを試みる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や調度品の持ち込みを進めるも家族が今のままで満足されているのか、どの居室もすっきりとしている。</p> <p>(外部評価) 居室のベッドやタンスは備品であるが、配置は自由に変えることが出来る。個人の持ち込みは多くはないが、本人の思い出のある本や家族の写真を飾って居心地よく過ごせる居室になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 100%はできてないが、少しでも役割づくりの支援をする為に状態の把握に努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	㈱たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 7月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海に囲まれた館物の中で、ゆつくりとした時間を一緒に泣いたり、笑ったりし、穏やかに過ごしていただきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「本人の立場に立って考える」という姿勢を大切にしており、それが利用者の穏やかな表情に繋がっている。職員が介護業務で喜びを感じることに、話し合った際出された意見として、ホームが大好きな利用者から「今晚泊めてもらって良いですか?」と言われた時、利用者が判断、結論を出さなければならない時、職員に対して家族に求めるような眼差し、態度で同意を求めてきた時であった。地域の各種イベントは、高台にあるホームの眼下で開催され、広い窓からは、海や砂浜の海水浴場など飽くことなく眺めることができる。職員は、利用者、家族、地域、行政との関係を大切に、介護業務のなかに幸せを感じており、今後も一層努力されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆつくりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 南ウイング

記入者(管理者)

氏名 笹岡 エリコ

評価完了日 21年 6月 30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を日々の暮らしや、介護計画にも反映できる様に毎月の職員会議等で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 「人生の最終ステージを尊厳あるものとするためにその人らしく生き生きと暮らしていただく」という理念のもと「言葉で表現できない人の気持ちを察する必要性」「職員の気配りの大切さ」など、職員は常に「その人の立場に立って」考えることをモットーにしている。理念に沿った個人目標も立て、毎月の職員会で報告するシステムもある。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 医療、理美容、買い物等も地域を利用し、地域の行事等皆で参加したり、保育園や小学校等訪問していただけるようになり、理解や支援も少しずつして頂ける様になった。</p> <p>(外部評価) 利用者の半数は地元出身者であったので、職員の雇用についても意識的に地元出身者を採用した。開設当初からグループホームが地域に受け入れられるよう努力を重ねた結果、保育園や小・中学校生の訪問もあり、地域の行事にも好意的に迎え入れてもらえるようになった。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) まだ開設して2年弱である為少しずつ地域の人々に理解が得られる様になったかなと感じている。今後努力していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度の推進会議を行いホーム内での事は報告したり、意見等お聞きしている。会議の内容も職員会議で報告し、職員間で話し合い検討しながらサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 多彩な構成員で2ヶ月に1回開催している。会議で得たものは多いが、特に①地域と繋がりが出来たこと、②地域住民が温かく見守ってくれるようになったこと、③委員の橋渡しで利用者の昔の友達がホームを訪ねてくれるようになったこと、などがある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議には必ず市役所の担当者の出席して頂き実情の報告をしている。又市役所が開催される説明会や研修会にも必ず出席し意見交換している。又、管理面でも電話等でも相談しながら、運営している。	
			(外部評価) 市主催の説明会や研修会には必ず出席している。運営推進会議では市担当職員に出席いただき、災害対策として消火栓の位置が不明な所を調査・報告してもらうなど積極的な連携を得ている。事故発生報告および改善策等の文書連絡も密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外はカギはかけず戸は開放、身体拘束も職員同士話し合い理解している。	
			(外部評価) 夜間・早朝のみ安全上の配慮から施錠している。鍵をかけない暮らしの大切さを理解し、また利用者の立場に立って「動きたい時に動けない辛さ」を認識し、身体拘束をなくしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の意味を理解し、見過ごさない様に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の情報を職員間で共有できる様に今後勉強できる機会を作りたい。必要に応じて、情報を提供できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所される時に家族の方に説明を行い理解と同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見を頂いた場合は職員会で話し合い検討対応している。又即時対応できる場合はその場での対応を心がけている。 (外部評価) 日頃から、家族の声を聞く努力をしている。運営推進会議は特に有効であるが、出席いただく家族はまだ少ない。家族から出された普段聞けない色々な思いや意見、また課題等を職員間で共有し、改善に繋げるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会等で意見聴いたり個別でも相談を受けたりして必要に応じて、管理者や管理者を通じて、代表者に伝える。 (外部評価) 毎月、全職員参加の職員会を開催し、コミュニケーションの場としている。事業所の自己評価も最終的にはこの席で十分な意見交換のうえまとめている。この1年間でより広く深く勉強したいという理由で職員2名がやむを得ず退職したが、利用者へのダメージを最少にするよう配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格手当や賞与での査定もある。職員の勤務にも事情に合わせて勤務形態をあわせるなどなどしているが、やりがいがあるというところまでいっていないのが実情。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験にあわせて、研修等受ける機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会の研修会等の出席や、近隣の施設の管理者等と相互に連絡がある。又実践者研修や、グループホーム協会の研修会等で、職員も交流できるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初回のアセスメントや、情報提供及び本人から、困っている事は聴き、入所してからの声かけ等を通じて不安や要望等を聞きながら安心してもらえる様努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の来訪時には、声かけ多くして、いままでの介護をねぎらいながら、不安や、要望等お聞きしている。必要に応じて電話等でもお聞きしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要に応じて支援可能な他のサービスの利用の検討も行い、家族の話をしっかり受とめながら、理解を求めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いを知る事に努め声かけや一日一日がその人らしく暮らせる様支援をする。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が来所した時等気軽に相談や話ができる様信頼関係を築けるよう努力しているが全員に出来ているとはいえない。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に面会できる様配慮している。 (外部評価) 利用者本人の生活習慣を尊重し、人間関係や地域社会との関係を継続できるよう努力している。地域の人達の協力により、利用者が知人や友人と再会し、関係性の継続につながった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者との関わりを多く持ち利用者同士がうまくつき合える様に職員が間に入る。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者を通し、連絡や相談を受けれるよう支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中でコミュニケーションをとりながら把握しているが意思疎通が困難の方は難しいながらも、表情等観察しながら、楽しいと感じて頂ける様に努めている。	
			(外部評価) 職員は「普段の生活の中で、本人はどう思っているのか」という視点で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞きとろうと努力している。気づいたことは連絡ノートに記載し、全員で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常の会話や面会の方々からの話の中で把握できる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の動作や会話、申し送りノートにより把握する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月の職員会議によりスタッフ全員で話し合い、本人から聞ける場合は事前に話を聞き。必要に応じて家族等に電話等で相談しながら検討している。 (外部評価) 介護計画は、必ず家族の思いや意向を確かめ、利用者が同席するケア会議で職員全員が意見交換して立案している。その人らしく暮らし続けることを大切に、本人の希望の尊重をケアプラン作成の第一番目に取り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の個別の記録する。申し送りノートの活用。朝夕の申し送りも全員で把握するようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り取り組めるように努めている。。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育所、小学校の児童の訪問を受け豊かな感性で生活を楽んでもらえるひとときを作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の要望を受けてかかりつけ医との関係を保ちつ つ、適切な医療機関へ受診介助を行っている。	
			(外部評価) 本人、家族の希望によって主治医を決定している。遠 方への通院は家族同伴をお願いし、帰宅時には報告を 受けて情報共有している。地元の協力医院で受診する 場合は職員が介助し、その報告は緊急性がなければ毎 月の会計報告書に添付して情報のやり取りをしてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) かかりつけ医師、看護師に受診時相談し、家族へ連絡 をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) かかりつけ医師からの紹介で入院・治療ができる。又 お見舞いに伺ったり、電話等相談したりしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意向を第一として希望通りに終末期を向かえら れるよう家族、主治医、職員と話し合えるよう努めて いる。	
			(外部評価) 利用者の状態の変化に応じて、家族や医療機関と繰り 返し話し合い、連携を図っている。家族は、早い段階 では「ホームで終末期を迎えさせたい」と希望するが、 最終的には病院を選ぶことが多い。ホームは開設以来 2年で2人の看取りを経験し、納得した最期を迎えら れるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署より指導して頂き応急手当や、初期対応の訓練をしたが、毎年受け、一番大きな不安と感じている事でもあり、適切に実施できる様に努めたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害については消防署より指導を受け地域の消防団との話し合いも進めている。今後訓練も実地していきたい。 (外部評価) 地元消防団に館内の避難経路、消火設備を確認してもらい、災害時の協力依頼をしているが、訓練はまだ実施していない。高波などの災害時には、高台に位置する当ホームを非難場所として提供することも地元へ伝えている。	災害はいつ、どの時間帯に起こるか分からないので、多くの職員が夜間の1人勤務に不安をもっている。不安解消の一助として、様々な状況に応じた実践的な訓練が実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会議時に意識向上を図ると共に利用者の誇りやプライバシーを守り声かけや対応を努めている。 (外部評価) 「人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない」をモットーに日々介護に取り組んでいる。動作が不安定な利用者のトイレ内での転倒・骨折など「危険性」に対して、本人の希望と家族の心配が相反し、判断が難しい場合もあるが、安全に配慮しながらプライバシーを守るよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声かけしたり、意思疎通が困難な方には表情等から読み取り尊重する様努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日の生活の流れの中で一人一人の思いを尊重し安全に過せる様支援しているが、全員に満足できる様に支援できない場合もあり、理解を得ながら、譲り合いをお願いしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容院は本人の望む店に行けるよう努めたり、また本人の希望に添うよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事やおやつは一緒のテーブルを囲んで食べている。片付け（手伝い）等は自ら、利用者が進んで出来ることをしてもらっている。 (外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。食事風景は大変穏やかで、介助の必要な方への対応も優しさ溢れるものであった。食事に関する一連の作業で、準備の段階は知ることが出来なかったが、後片付けは自然の流れの中で共同して行われている様子を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人に合わせた食事を提供し栄養バランス、水分摂取が出来る様支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアをしている。無理強いはない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握しトイレで気持ちの良い排泄が出来る様支援している。日中は全員トイレで排泄している。</p> <p>(外部評価) 日中は、全員トイレでの排泄を心がけ、夜間のみオムツを使用している。一人ひとりの羞恥心や不安に配慮しながら、食後の口腔ケア時に、利用者の耳元でさりげなく排泄の誘導をしたり自立に向けた支援を心がけている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 繊維の多い食品や牛乳を摂取したり水分補給を心がけている。日中の運動や体動を増やし改善が見られない時は主治医の指示で、下剤の服用もある。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 利用者の体調と希望を確認し入浴してもらう。順番は、譲り合いや、理解を得るよう心がけ、気持ちよい入浴が出来る様支援する。</p> <p>(外部評価) 本人の意向にそって、希望者は毎日入浴している。一番風呂を希望する利用者が多く、その対応に悩んだ時期もあったが、家族の提案で入浴順番表を呈示することにより解決し、現在は入浴を楽しんでもらっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中その人に合った活動をしてもらったり、休息をとってもらったりしている。 眠剤を服用している方もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 常にかかりつけ医に相談しながら、服薬の支援をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人にあった作業をお願いし、して頂いたことに感謝する。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩・買い物・美容院、花見など支援している。	
			(外部評価) 利用者の半数が地元出身者であるため、家族が「人に知られたくない」という理由で外出を拒む例もあるが、グループホームとしては家族の理解が得られるまで待って、希望にそった外出支援をしている。戸外の行事に参加する時は、家族や地域住民のサポートを得て外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には職員が預かっているが、自分で管理されている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 出来る方には電話、手紙の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 月ごとの手作りカレンダーで季節感を出したり、花をかざったりしている。</p> <p>(外部評価) ホームは、木造で温かい雰囲気があり、天井の梁なども美しく、共用空間として居心地がよい。利用者の写真や訪問した子供達の様子が掲示板にすっきりとまとめられ、壁には余計な飾りがなく、利用者にとって安心で気持ちのよい環境となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂や居間で気の合った者同士で思い思いに過ごされている。その場の状況に応じて、職員がそれとなく席替え等お願いしたりする。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族の写真を飾られたり、本、日用品など持ち込まれている。</p> <p>(外部評価) 居室のベッドやタンスは備品であるが、配置は自由に変えることができる。個人の持ち込みは多くはないが、本人の思い出のある本や家族の写真を飾って居心地よく過ごせる居室になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人一人のできることなどを考え声かけをしている。</p>	